

自分の命は自分で守る ～火事想定避難訓練、大阪府北部地震～

昨日の避難訓練では、全校生が「おさない はしらない しゃべらない もどらない てい学年を守る」の約束を守って避難することができました。大切な「2つのあ」の一つである「安全」をしっかり守れることを、温小っ子は行動で示してくれました。講師としてお招きした消防署の方も、「静かに避難できました。」と子どもたちを褒めてくださいました。

その後、避難の仕方や消火器の使い方などについて、詳しくお聞きしました。

1 避難の仕方（火事の時） ◎最も大切なこと…いかに煙を吸わずに避難するか。

煙の特性⇒秒速3～6mの速さで上へ昇る。

（下には、まだきれいな空気が残っている可能性がある。）

※ハンカチ、タオル等で口や鼻をおおい、姿勢を低くして避難する。

（実際、頭一つ分の高さの違いで、生死を分けた例がある。）

2 火事を発見した時

（1）まず、「火事だ！」と大声で叫んで大人に知らせる。

（普段から大きな声で挨拶をする習慣を身につけていると、いざという場面で役立つ。）

（2）消火器の使用法

- ① 安全栓（黄色い栓）を上へ抜く。
- ② ホースを外して火元へ向ける。
- ③ レバーを握る。

⇒火の根元を掃くようにして、遠くから近づいて消火する。

次に代表の児童が、訓練用消火器を使って消火の練習をしました。どの子も上手に使用することができました。



訓練後の振り返りカードより

- ・消火器を初めて使ったが、使い方が簡単で良かったし、火事が起きたら、「火事だ！」と言って、今日のことを生かしていきたい。
- ・本当にあった感じの気持ちで訓練をした。避難の仕方や消火器の使い方がよく分かった。
- ・日頃から大きな声で挨拶をしていると、このような災害の時に役に立つことが分かった。

「訓練は本番のように、本番は訓練のように」が大切ですが、子どもたちは本番と同じ気持ちで避難訓練に臨んでいたことが、上記のカードからもよく分かりました。あつてはいけません火事に遭遇した時、訓練を生かして行動してくれることを願っています。

18日（月）の朝は、大阪府北部で震度6弱という大きな地震が発生しました。新温泉町でも揺れを観測し、町の防災放送が流れました。この地震により、高槻市では、通学途中の4年生女児が亡くなるという痛ましい事故が起きました。その女の子は、あいさつ当番でいつもより10分早く登校し、ブロック塀の崩落に巻き込まれたそうです。報道によると、ブロック塀は建築基準法が定める高さを超えており、基礎と塀を固定する設備も同法に適合していなかったということです。

学校ではその日、この地震で小学生の女の子が亡くなったことを全校生に話しました。そして、地震が起こった場合は、

落ちてこない、倒れてこない所へ素早く移動する。次に、低い体勢で頭を守る。

ということを話しました。

自分の命は自分で守る【自助】 周りの人と助け合う【共助】

このことを忘れず、適切に行動できる温小っ子になってほしいと考えています。